

感染性胃腸炎の注意喚起について

島根県感染症発生動向調査による、感染性胃腸炎の定点あたりの報告数が3週連続10.00人を超え、ノロウイルスを中心とした感染性胃腸炎が流行しています。

ノロウイルスは、手指や食品などを介して、経口で感染し、おう吐、下痢、腹痛などを起こします。また、感染力が強いので、施設や家庭内などで広がりやすく二次感染の注意が必要です。

【県民の皆様へ】

＜予防するために＞

- ノロウイルスはアルコール消毒の効果が乏しいため、排便後、調理や食事の前には、その都度、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
- カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう。
- 吐物やふん便の処理には、十分な換気のもと、使い捨ての手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウム（塩素系の漂白剤）を使いましょう。
- ノロウイルスは下痢等の症状がなくなっても、通常では1週間程度、長いときには1ヶ月程度ウイルスの排泄が続くことがあるので、症状が改善した後も、しばらくの間、直接食品を取り扱うときには注意が必要です。

＜感染した場合には＞

- 乳幼児や高齢者では下痢等による脱水症状を生じることがありますので、早めに医療機関を受診しましょう。
- 特に、高齢者は、誤えん（嘔吐物が気管に入る）による肺炎を起こすことがあるため、体調の変化に注意しましょう。
- 嘔吐の症状がおさまったら、少しずつ水分を補給し、安静に努め、回復期には消化しやすい食事をするように心がけましょう。

【感染症発生動向調査（保健所管内別の感染性胃腸炎の発生状況）】

		松江	雲南	出雲	県央	浜田	益田	隠岐	全県
定点医療機関数		7	2	5	2	3	3	1	23
第3週 (1/15~1/21)	患者数	41	48	117	1	33	44	4	288
	定点あたり報告数（人）	5.86	24.00	23.40	0.50	11.00	14.67	4.00	12.52
第4週 (1/22~1/28)	患者数	46	48	85	0	62	32	5	278
	定点あたり報告数（人）	6.57	24.00	17.00	—	20.67	10.67	5.00	12.09
第5週 (1/29~2/4)	患者数	38	16	102	1	82	32	0	271
	定点あたり報告数（人）	5.43	8.00	20.40	0.50	27.33	10.67	—	11.78

【定点あたり報告数（人）＝1週間に定点医療機関を受診した患者数／定点医療機関数】

- 県内流行情報の詳細は島根県感染症情報センターのホームページをご覧ください。
<https://www1.pref.shimane.lg.jp/contents/kansen/dis/teiten/d603dt.htm#week>
- 全国の感染性胃腸炎の発生状況については、こちらをご覧ください。
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/norovirus/index.html>